

下水について

私が小学生の頃、中学生の姉の文化発表会に来ていた。その時に水の作文を知り、先輩たちの発表を聞いていた。そして私が中学生になって自分が水の作文を書く時になり、あらためて水の事についてゆっくり考えた。

そんな時に大阪の祖父母宅に行くと、私の住む毛原には無い二つのマンホールを見つけた。汚水のマンホール、雨水のマンホールだ。なぜ大阪にはあり山添にはないのかと不思議に思い、自分なりに調べてみた。

私には不思議な事だが私が見た二つのマンホールは雨水や生活用水をいろんな所から下水道局に集めて、ろか・沈殿などを何度も繰り返し返して、水をきれいにし、海や川などに戻している。しかし私の住む山添では祖父の住む所のような下水処理が十分にされていない。ある大字では下水処理が進んでい

山添村立山添中学校 一年

福井 稀晟

るのに、多くは下水処理場がない。でも、各家で浄化槽をつけきれいな水を川に流している。でも、残念な事に浄化槽は全戸にはないのが現実だ。私の家もリフォームするまでの私が保育園の年中の時まで、全てではないが一部の生活用水を川にそのまま流していたと聞いた。これを知った時、

「そのまま流していたなんてありえない。」
と思った。このありえない状況は、こうして私がこの作文を書いている時も、学校にいる時も続いている。

「いつまでも自分の住む地域の川がきれいであってほしい。」

と思うのに、そこに住んでいる住民が川を汚している事になっている。

父は、
「昔はきれいやったけど、今は汚い。」

「父さんが小さい頃、川でウナギ捕って
た。」

と言っていた。

祖父は、

「もつときれいだった。」

「ホタルも今より多かった。」

大阪から来た母は、

「山奥だから川がきれいだろうなと期待して

たけど実際見てみたらあまり大したことな

い。」

「生活用水の流れている川魚は食べたくな

い。」

と言っていた。

私も川を見て、

「にごつていて、きれいじゃない。」

と思っっている。

このように汚くなってしまった川。この川

をきれいにするには、一人一人が気をつける

のは当たり前。山添は各々の家が遠いので下

水施設をつけるのは難しいと思う。全家庭に

浄化槽をつけなければならぬ。また、浄化

槽の代わりになる物は、私が調べた中ではな

かった。

私はまだ見た事がないが、

「だれが見てもきれいだと思える川」

に戻ってほしい。きれいな川になったら、祖

父が小さかった頃のようにホタルがたくさん

戻ってくるだろう。魚も抵抗なく、おいしく

食べれるだろう。

そんな川にするために、私達は家族で、地

域で、村で、協力し合う事が大切だと思う。